

特集：青少年暴力の原因究明と対策

実務家が、青少年の暴力予防プログラムの効果に関するエビデンスを入手する： ウェブを通じたレビュー成果の提供

津富宏
静岡県立大学

Practitioners' Access to Evidence on the Effects of Youth Violence Prevention Programs: Providing Review Outcomes through the Web

Hiroshi TSUTOMI
University of Shizuoka

抄録

ウェブを通じて、青少年暴力予防プログラムの効果に関するエビデンスを、実務家に対して提供する試みが行われてきた。筆者は、ウェブ上で探索を行い、総計23のウェブサイト把握した。そのうち、主要な三つのサイトについて、それぞれ実務家の利用を促進するため工夫がなされていることが見いだされた。

キーワード：暴力予防プログラム、青少年、エビデンス、ウェブサイト、実務家

Abstract

In the U.S.A., the evidence on the effects of youth violence prevention programs have been distributed through the web. The author found 23 websites disseminating such evidences. Then, the author examined three of these websites to find that these are structured to encourage practitioners to use the evidences.

Keywords : violence prevention program, youth, evidence, website, practitioner

はじめに

青少年の暴力予防プログラムの効果については多くの研究が行われてきた。しかし、実務家にとっては、紙媒体の研究へのアクセスは容易ではなく、アクセスできたとしても、エビデンスの質を吟味する訓練を受けていないことが多いため質の吟味ができず、質の吟味ができたとしても、こうした研究は実務への応用を意図して書かれていないので実務に応用しにくい。そこで、米国を中心として、こうした研究の質を吟味してレビューし、さらに、実務家に利用しやすいようインターフェイスを工夫したり情報を付加したりして、レビューから得られるエビデンスをウェブサイトを通じて提供する試みが行われてきた。

米国の場合、青少年の暴力予防プログラムは商品化されているものがほとんどなので、こうしたウェブサイトは、プログラムの消費者である実務家に対して、商品レポートを提供

していることになる。

なお、本稿では、暴力予防プログラムとは、violence, violent behavior, violent crimeなどのviolenceに関連するアウトカムをもつプログラムを指すこととする（つまり、aggression, angerなど攻撃性・怒りに関連するアウトカムは含まない）。

ウェブサイトの概観

表1に、レビューによるエビデンスをウェブ上で直接提供している15のウェブサイトを列挙し、さらに、参考として、表2に、文書として作成されたレビューを掲載している8つのウェブサイトを列挙した。表2に掲げたウェブサイトは、文書自体が更新されないの有用性が徐々に減少するし、また、プログラムのリストとして用いるには不便である。

これらのウェブサイトにおけるプログラム選択の最近の傾向を見ると、効果値についての厳密さをプログラム評価に

において重視する傾向が強まっており、無作為統制実験の知見のみを紹介(たとえば、Social Programs That Work, Poverty Action Lab), 実験と擬似実験の知見を別個に報告(たとえば、What Works Clearing House) するなどの事例が見られる。この動きを受けて、SAMSHA(Substance Abuse and Mental Health Services Administration)'s National Registry of Evidence-based Programs and Practices (NREPP) はエビデンスの強さをより強調した新たな基準を用いてすべてのプログラムを再評価している。また、この動きと連動し、無効果であってもプログラムを掲載する傾向が強まっており、系統的レビューの結果をそのまま報告(What Works Clearing House, Campbell Collaboration's Register of Interventions and Policy Evaluation (C2-RIPE)), 無効果のプログラムも列挙(Social Programs That Work) するなどの取組みが目立っている。

主要なウェブサイトの検討

表3に、表1に掲げられたウェブサイトのうち、有力なウェブサイト7つを取り上げ、さらに、そのうち、代表的な3つを以下で検討する。

1. Blueprints for Violence Prevention

青少年暴力に関するプログラムの評価結果を提供するウェブサイトとして定評がある。1996年に始まったこのプロジェクトは非行研究で知られた、コロラド大学暴力研究予防センターが運営しており、その特徴は、プログラムの内容紹介に力を注いでいることにある。ウェブ上でビデオクリップも用いて詳細なプログラムの紹介を行うほか、Blueprints for Violence Prevention Seriesとして各プログラムを簡略にまとめた小冊子を発行している。商業化された暴力予防プログラムは研修に参加しないとその内容を知ることができないことが多いから、Blueprints for Violence Prevention Seriesは、商業化されたプログラムの内容を把握するための貴重な情報源となっている。

研究デザイン、効果の持続性、複数個所における追試の3つの観点のすべてで基準を満たすプログラムをModel Programとし、11件のプログラムを列挙している(表3参照)。貴重なのは、Project Matrixと称して、12本のレビュー(本稿の表1及び表2における1, 2, 4, 5, 10, 17, 18, 19, 20, 21番のレビューを含む)において取り上げられているプログラム総計376件(2004年12月現在)を取り上げ、どのプログラムがどのレビューによって、どのような評価を受けているかを一覧表として提供していることである。

この表を吟味し、12本のレビューのうち6本以上のレビューにおいて、最高位の評価を得ているプログラムを残すと、11件のプログラムが抽出される。驚くべきことにそのうち10件のプログラムは、Blueprintsにおいて最上位の評価であるModel Programsとして評価された11件のプログラムに含まれており、残りの1件もBlueprintsにおいて次位の評価であるPromising Programとして評価されている。すなわち、現時点では、Blueprintsに、青少年の暴力予防プログラムの有効性に関する知見が集約されている。

ラムの有効性に関する知見が集約されている。

2. OJJDP Model Programs Guide

このウェブサイトは、リスク要因・保護要因モデルという疫学の考え方(cf. Welsh, 2005)に拠っている。ウェブサイトでは、Model Programs Searchable Databaseというデータベースの検索システムがあり、このモデルにしたがって、利用者は自分の地域に最も適したプログラムを抽出できる。最初の画面は、「あなたの地域の対象者の特徴を選んでください」とあり、年齢・性別・人種・プログラムのタイプ・対象者の5つの観点から、選択肢を選ぶ。たとえば、年齢については、対象者の年齢層を【すべて 乳児(0歳から3歳) 幼児(3歳から5歳) 学齢期(6歳から12歳) 思春期(12歳から18歳)】の5つのうちから1つ選ぶ。二番目の画面では、表4に掲げるリスク要因が列挙されているので、自分の地域に当てはまるリスク要因を選ぶ。三番目の画面では、表5に掲げる保護要因が列挙されているので、自分の地域に当てはまる保護要因を選ぶ。すると、自分の地域に当てはまるプログラムが検索できるのである。

なお、このリスク要因・保護要因モデルの老家とも言えるウェブサイトが、Communities That Care[®] Prevention Strategies Guide Onlineである。Communities That Care[®]は、ワシントン大学社会発達研究グループのJ. D. HawkinsとR. F. Catalanoらが開発した、地域をベースにした非行予防プログラムで、Channing Bete Companyを通じて商品化されている。彼らは、およそ100件のプログラムを有効であるとして列挙し、それぞれのプログラムが、地域、家族、学校、個人/友人の4領域における、どのリスク要因の減少に対して有効かというマトリックスを作成し、有効なプログラムと自分の地域のリスク要因とのマッチングを可能としている。残念なことに、Communities That Care[®] Prevention Strategies Guide Onlineは米国からしか利用できない。

3. Proven and Promising Programs

米国を代表するシンクタンクである、Rand Corporationが、児童、青少年、家族全般への介入についてのレビューを提供している。その特徴は、効果のあるプログラムを紹介するだけでなく、プログラムを実施するためのノウハウを提供していることである。ノウハウは5つの領域に分けて提供されている。

- ・地域の連帯と協力の形成、資金確保及び維持： 地域や行政機関との連携をどのように形作るか、住民の参加をどのように得るか、資金をどのように確保するか、地域住民やリーダーを巻き込むことで連帯への支持をどのように確立し維持するか。
- ・サービスの統合： サービスの統合とは何か、どのようにサービスの統合を実現するか。
- ・プログラムの実施： プログラムの実施とは何を意味するか、実施がなぜ重要でどのように行えばよいか、実施がきちんと行われているかどうかをどのように測定すればよいか。
- ・過程評価とアウトカムのモニタリング： プログラムにフィードバックするためデータ収集がいかに大切か、どの

ように重要なアウトカムを定義するか、課程評価とアウトカム評価に関する基本的知識とは何か。

- ・結果に基づく意思決定：アウトカムのモニタリングの一類型である、結果に基づく意思決定とは何か。結果に基づく計画/予算など、結果に基づくマネジメントをどのように行うか。

どのプログラムが有効であるかどうかを知ったとしても、直ちに、そのプログラムを有効に実施できるわけではない。その意味で Proven and Promising Programs の提供する実施に関する付加的な情報は重要である。

おわりに

商品化されたプログラムの実施には資金を要する。よって、プログラムの有効性に関するエビデンスは、助成対象の選定のガイドラインとして活用されることによって、プログラムの利用の度合いに大きな影響を与えてきた。近年では、薬物乱用の主要プログラムであった D. A. R. E. について無効であるとのエビデンスが蓄積され、これが助成対象の選定に影響を与えることを通じて、利用を減少させたことが知られている (津富, 2004; Weiss, et al, 2005; Petrosino, in Press).

エビデンスを提供するだけでは、実務家の行動は変容しない。ウェブ上の情報がどのように実務家の行動に影響を与えるのかについて、僕らはさらに知る必要がある。

表1 レビューを行ってその成果を直接ウェブ上で提供しているウェブサイト

1	Blueprints for Violence Prevention http://www.colorado.edu/cspv/blueprints/ Center for the Study and Prevention of Violence, University of Colorado	暴力に特化。最も歴史があり、代表的
2	OJJDP Model Programs Guide http://www.dsgonline.com/WebEffects/dhtml_slide_tree/pepg_int.htm OJJDP, Department of Justice	リスク・保護要因モデルに基づく
3	Proven and Promising Programs http://www.promisingpractices.net/default.asp Promising Programs Network	RAND Corporation が提供
4	SAMSHA's National Registry of Evidence-based Programs and Practices (NREPP) http://modelprograms.samhsa.gov/template.cfm?page=default SAMSHA (Substance Abuse and Mental Health Services Administration)	薬物乱用が中心
5	Strengthening America's Families: Effective Family Programs for Prevention of Delinquency http://www.strengtheningfamilies.org Office of Juvenile Justice and Delinquency Prevention (OJJDP) in collaboration with the Substance Abuse and Mental Health Service's Center for Substance Abuse Prevention (CSAP)	1999 年以降更新されていない
6	Social Programs That Work http://www.evidencebasedprograms.org/ Coalition for Evidence-based Policy	ロビインググループのプロジェクト 2004 年にスタート
7	What Works Clearinghouse http://www.w-w-c.org/ Department of Education, USA	教育省の新しいプロジェクト
8	The Guide to Community Preventive Services http://www.thecommunityguide.org/ Task Force on Community Preventive Services, Center for Disease Control and Prevention	疾病対策予防センターのプロジェクト
9	Register of Interventions and Policy Evaluation (C2-RIPE) http://www.campbellcollaboration.org/ Campbell Collaboration	国際的なプロジェクトであるキャンベル共同計画の成果
10	Communities That Care (r) Prevention Strategies Guide Online http://www.channing-bete.com/positiveyouth/pages/CTC/prevention_strategies.html Channing Bete Company	米国からのみアクセス可能 ワシントン大学社会発達研究グループのプロジェクト
11	Guide to Effective Programs for Children and Youth http://www.childtrends.org/_catdisp_page.cfm?LID=19F05641-1A5C-4C03-AF57CB04B4CEC025 Child Trends	アウトカムとプログラムのタイプで検索可能
12	"What Works" for Child and Youth Development Tools for Improving Services to Children and Youth http://www.childtrends.org/_catdisp_page.cfm?LID=91F45245-56E6-4782-9807023A43EEB254 Child Trends	二本のレビューを含む
13	Database of Prevention Programs http://www.northeastcapt.org/pod/search.asp Northeast Center for the Application of Prevention Technologies, Center for Substance Abuse Prevention	これら複数のレビューをカバーしてプログラム情報を提供
14	Programs Database http://hamfish.org/programs/ Hamilton Fish National Institute	多くのプログラムを列挙するがプログラム選択の基準が不明

参考文献

津富宏. 少年非行対策の改善に向けて. 青少年問題
2004;51(7): 10-15.

Petrosino A. D. A. R. E. and scientific evidence: A 20 year
history. 犯罪社会学研究. in press

Weiss CH, Murphy-Graham E, Birkeland S. An Alternate
route to policy influence: How evaluations affect D.A.R.E.
American Journal of Evaluation 2005; 26: 12-30.

Welsh BC. Public health and the prevention of juvenile
criminal violence. Youth Violence and Juvenile Justice 2005;
3: 23-40.

表2 レビュー・レポート（文書）を掲載しているウェブサイト

15	Poverty Action Lab http://www.povertyactionlab.com/ Massachusetts Institute of Technology	途上国における開発プロジェクトの評価が中心 RCTのみ
16	Safe and Sound: An Educational Leader's Guide to Evidence-Based Social and Emotional Learning (SEL) Programs http://www.casel.org/projects_products/safeandsound.php Collaborative for Academic, Social, and Emotional Learning (CASEL)	情操教育の観点から プログラム検索も可能
17	Exemplary and Promising Safe, Disciplined, and Drug-Free Schools Programs, 2001 http://www.ed.gov/admins/lead/safety/exemplary01/exemplary01.pdf Office of Safe and Drug-Free Schools, Department of Education	学校の安全の観点から
18	Youth Violence: A Report of the Surgeon General http://www.surgeongeneral.gov/library/youthviolence/default.htm Surgeon General of the Public Health Service	公衆衛生の観点から
19	Preventing Crime: What Works, What Doesn't What's Promising http://www.ncjrs.org/works/ Lawrence Sherman and others	犯罪学の観点から
20	Richard A. Mendel, Less Hype, More Help: Reducing Juvenile Crime, What Works – and What Doesn't http://www.aypf.org/mendel/index.html American Youth Policy Forum	少年非行の観点から
21	Preventing Mental Disorders in School-Age Children: A Review of the Effectiveness of Prevention Programs http://www.prevention.psu.edu/pubs/CMHS.html Center for Mental Health Services	児童精神衛生の観点から
22	Preventing Drug Use among Children and Adolescents http://www.drugabuse.gov/pdf/prevention/RedBook.pdf National Institute on Drug Abuse	薬物乱用の観点から
23	World Report on Violence and Health http://www.who.int/violence_injury_prevention/violence/world_report/en/ World Health Organization	第2章が Youth Violence

表3 有力サイトの概要

	1. Blueprints for Violence Prevention	2. OJJDP Model Programs Guide
特徴	暴力予防に特化。1996年に始められた最も歴史の長い取組み（開始当初はウェブ上ではなかった）。随時更新されている。プログラムの概要を冊子にまとめて頒布するなど、プログラムの詳細の紹介に力を注ぐ。	非行予防が主眼。随時更新されている。当該 community ごとに risk factor と protective factor を入力すると、その community に最も適したプログラムを検索できる。
最良と判断されるプログラムの基準	強力な研究デザインで効果が示されていること、効果の持続性、複数箇所における追試の三つの観点を基準とする。最良とされるプログラム（Model プログラム）は、強力な研究デザイン（無作為割付による実験デザインないしマッチング統制群を用いた擬似実験デザイン）を用いて、暴力（児童期の攻撃性及び行為障害を含む）、非行、薬物乱用のいずれか一つをアウトカムとする抑止効果のエビデンスがあり、最低一年間の追跡期間にわたり効果が持続しその後効果が消滅しておらず、最低一か所における追試でその効果が示されたもの。	研究デザインの質及び抑止効果に関する科学的エビデンスによって判断。最良とされるプログラム（Exemplary プログラム）は、最良の質（つまり、無作為振分けによる実験デザイン）の評価により、特定の社会条件において、非行を予防することか、あるいは、非行のリスク要因を減少ないし保護要因を増加させていることが科学的に示されているもの。
最良とされるプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ Midwestern Prevention Project (MPP) ・ Big Brothers Big Sisters of America (BBBS) ・ Functional Family Therapy (FFT) ・ Life Skills Training (LST) ・ Multisystemic Therapy (MST) ・ Nurse-Family Partnership (NFP) ・ Multidimensional Treatment Foster Care (MTFC) ・ Bullying Prevention Program (BPP) ・ Promoting Alternative Thinking Strategies (PATHS) ・ The Incredible Years: Parent, Teacher and Child Training Series (IYS) ・ Project Towards No Drug Abuse (Project TND) 	<p>(Exemplary プログラムのうち、Aggression/Violence をターゲットにしているプログラム)</p> <p>Across Ages Al's Pals Big Brothers/Big Sisters CASASTART Creating Lasting Family Connections Families And Schools Together (FAST) Fresno County Repeat Offender Prevention Program Functional Family Therapy Guiding Good Choices Helping the Noncompliant Child Humboldt County Repeat Offender Prevention Program Multidimensional Family Therapy Multidimensional Treatment Foster Care Multisystemic Therapy Oakland Beat Health Program Orange County Repeat Offender Prevention Program Parenting With Love and Limits Promoting Alternative Thinking Strategies (PATHS) Responding In Peaceful and Positive Ways San Diego County Repeat Offender Prevention Program Second StepA Violence Prevention Curriculum Skills, Opportunity and Recognition (SOAR) Strengthening Families Program For Parents and Youth 10-14 Students Managing Anger and Resolution Together (SMART) Team Teaching Students to Be Peacemakers The Incredible Years Too Good for Violence Treatment Foster Care</p>

	3. Proven and Promising Programs	4. SAMSHA's National Registry of Evidence-based Programs and Practices (NREPP)
特徴	<p>4つの州レベルの団体と Rand Corporation が設立。RAND の研究者がすべてのプログラムをチェックして掲載。児童と家庭にかかわるさまざまなアウトカムに関するプログラムを対象。政策決定者、実務家等の、意思決定権を持つ人々を対象。常に更新されている。掲載された一つ一つのプログラムについて詳細な解説が付されている。</p>	<p>薬物乱用及びそれに関連する高リスク行動を対象とする。プログラム選定基準を、アウトカムに関するエビデンスの強さに基づいて行うように改めて、現在、プログラムの再審査を行っている。</p>
最良と判断されるプログラムの基準	<p>最良のプログラム (Proven programs) は、現場で用いられているベンチマークに直接効果をもたらしていること、少なくとも一つのアウトカムについて20%ないし0.25標準偏差以上の変化をもたらしていること、少なくとも一つのアウトカムは5%水準で有効であること、研究デザインは、無作為統制実験ないし何らかの擬似実験デザインなど比較群を用いた説得力のある研究デザインを用いていること、公表されていることの5つの条件を満たしたものである。</p>	<p>統計的に有意で実質的に意味のあるアウトカムが記載されているかどうか、プログラムの有効性の評価基準である。最良とされるプログラム (Effective Program or Practice) は、質の高いエビデンスにより、効果の大きさが中程度(両群の標準化差が0.5より大きい)以上で統計的に有意であり、また、異なる研究者による追試が一貫して効果を示しているものをいう。エビデンスの質の高さは、19項目について1点から5点で採点して求める。</p>
最良とされるプログラム	<p>(Violent behavior について有効とされるプログラム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CASASTART ・Child-Parent Centers ・Multisystemic Therapy (MST) ・Nurse Family Partnership ・Perry Preschool Project ・Seattle Social Development Project 	<p>(Violence に関し有効とされるプログラム。なお、新しい基準により選定されたプログラムはまだ掲載されていない)</p> <p>All Stars™</p> <p>CASASTART</p> <p>Creating Lasting Family Connections (CLFC)</p> <p>Family Effectiveness Training (FET)</p> <p>Incredible Years</p> <p>Leadership and Resiliency Program (LRP)</p> <p>Olweus Bullying Prevention</p> <p>Parenting Wisely</p> <p>Project ACHIEVE</p> <p>Responding in Peaceful and Positive Ways - RiPP</p> <p>Safe Dates</p> <p>Second Step</p> <p>SMART Team : Students Managing Anger and Resolution</p> <p>Together Team</p> <p>Teaching Students to be Peacemakers</p>

	6. Social Programs That Work	8. The Guide to Community Preventive Services
特徴	ロビイング・グループである、The Council for Excellence in Government が、政治家及び実務家を対象に、参加者の人生に対し大きな影響を与える社会政策や広く用いられているにもかかわらずほとんど効果のない社会政策に関する、良質の無作為統制実験の知見のみを選び、とりまとめたもの。早期介入、義務教育、薬物乱用、犯罪／暴力予防、福祉・雇用、国際開発の分野における介入を紹介している。	地域保健、疾病予防を促進する介入の有効性、経済効率、実行可能性をレビューする。アルコール、ガン、糖尿病、精神衛生、自動車事故、栄養、口腔衛生、運動、妊娠、性的行動、社会環境、薬物乱用、タバコ、ワクチン、暴力について、レビューを行う。計量的統合を用いた系統的レビューである。
最良と判断されるプログラムの基準	よくデザインされ実施された無作為割付実験であるかどうかを判断するために、米国管理予算局が用いている、「プログラムの有効性を示す強力なエビデンスの構成要素」を用いる。構成要素は、標本サイズ、介入群と実験群の間の介入前の系統的な差、脱落、実験群と統制群の振替り、(必要な場合に) 偽薬による統制、介入するという意図に沿った分析、妥当性のあるアウトカム尺度、評価者の盲検化、(可能なら) 長期的な追跡、適切な有意検定、もう一件ないしもう一か所での追試から成る。	入手可能な研究の数、研究デザイン、プログラム実施の質、報告された効果の大きさと一貫性によって、プログラムを選定する。最良の (Strong evidence のある) プログラムは、これらの5領域について一定の基準 (例えば、プログラム実施の質が良好、研究デザインが最良、研究数が2つ以上、研究の一貫性があり、効果の大きさが十分にある) を満たしたものをいう。
最良とされるプログラム	(Crime/Violence prevention の項目に掲げられているプログラム) <ul style="list-style-type: none"> ・ Multisystemic Therapy for Juvenile Offenders ・ Multi-Dimensional Treatment Foster Care (Early Childhood の項目だが、アウトカムに violent crime があるプログラム) <ul style="list-style-type: none"> ・ Perry Preschool Project 	(Violence をターゲットとする strong evidence のあるプログラム) <ul style="list-style-type: none"> ・ Therapeutic foster care for the prevention of violence ・ Early childhood home visitation programs

表4 リスク要因

コミュニティ	アルコールと薬物の入手可能性	家族	家族の問題行動歴・親の犯罪歴	個人	反社会的行動及び疎外／非行的な信念／一般的な非行への関与／薬物取引
	銃器の入手可能性		家庭のマネジメント上の問題・親の監督・監視の不十分さ		銃の所持／不法な銃の所有あるいは携帯
	地域の犯罪・近隣の犯罪率の高さ		児童の被害と虐待		十代で子どもを持つこと
	社会的物理的な秩序の乱れ・社会解体		家族内葛藤の高さ		薬物使用に関する寛容な態度／アルコールないし薬物の早期使用
	コミュニティの不安定さ		家族への愛着・結びつきの弱さ		攻撃性ないし暴力の早期発現
	コミュニティへのアタッチメントの低さ		家庭内の暴力		認知・神経的欠損／知能指数の低さ／過活動
	経済的剥奪／貧困／不利な状況におかれた地域に住居		母親の若さ		暴力被害ないし暴力にさらされた経験
	地域の青少年が困難を抱えている		欠損家庭		罪悪感・共感性の欠如
	地域について安全と感じられない		兄弟の反社会的行動		拒絶するスキルの低さ
	学業成績の低さ		家族成員の変化		慢性的な医療的・身体的状況
学校	学校への否定的な態度／結びつきの弱さ／学校への愛着・コミットメントの低さ	友人	親の教育レベルの低さ・非識字	個人	生活上のストレス因
	学校の雰囲気悪さ／学校のまとまり・機能悪さ／教師による否定的ラベリング		親による体罰の使用／厳しいあるいは一貫しないしつけ		早期の性的行動
	中退		母親の抑うつ		精神障害／精神衛生の問題／行為障害
	学習障害者としての識別		ギャングとのかかわり／ギャングへの加入		
	停学		友人のアルコール、タバコ、その他の薬物の使用		
	怠学・頻繁な欠席		非行をしているあるいは・及び攻撃的な友人との付き合い		
	学業に関する将来の期待の低さ		友人からの排斥		
	親の子どもに対する大学教育の期待の低さ				
	頻繁な転校				

表5 保護の要因

コミュニティ	面倒見のよい支持的な成人の存在と関与	家族	効果的な子育て	個人	社会的コンピテンス及び問題解決スキル
	向社会的な機会への参加／近隣の資源の入手可能性		親との良好な関係／家族とのつながり・愛着		積極的／打たれづよい性質
	青少年に対する期待の高さ		家族との向社会的なかかわりの機会		宗教心／宗教的活動への関与
	安全な環境／近隣の犯罪の少なさ		家族成員の安定		自己効力感
	不利な条件に置かれていない地域		家族との向社会的なかかわりに対する報酬		前向きな期待／将来への楽観
	向社会的なコミュニティの関与に対する報酬		子どもに対する期待の高さ		自分への高い期待
	明確な社会規範／違反に対する制裁と同調に対する報酬に関するポリシー				
学校	面倒見のよい支持的な成人の存在と関与	友人	有意義な友人集団の活動へのかかわり	個人	健康的で伝統的な信念と明確な基準
	生徒に対する高い期待		友人との良好な関係		成人及び友人から社会的サポートを得ているという認識
	学校の質の高さ／明確な基準とルール		親による友人の承認		
	学校への向社会的なかかわりの機会				
	強力な学校への動機／学校に対する前向きな態度				
	生徒の社会的絆（教師に対するアタッチメント、ピリーフ、コミットメント）				
	平均を上回る学業成績／読み書きのスキル				
学校への向社会的なかかわりへの報酬					